

編集後記

「総合的なTPP関連政策大綱」（平成27年11月25日 TPP総合対策本部決定）を踏まえ、平成27年度補正予算をはじめ、様々な施策が実施されています。その一つが「外食産業等と連携した需要拡大対策事業」です。この事業は、産地と民間企業等の連携により、国産農林水物を活用した新商品の開発やそれに必要な技術等を支援しようというもので、対象農産物は以下のとおりです。現在、関係全国団体が事業実施主体となって新商品を開発する外食・加工業者等を公募しています。

- 豆類（小豆、いんげん等）（一社）全国豆類振興会
- 茶等工芸農作物・いも類等甘味資源作物（公財）日本特産農産物協会
- 青果物（果実、野菜）（公財）中央果実協会
- 米（公社）米穀安定供給確保支援機構
- 麦（一社）全国米麦改良協会

この公募を円滑に進めるために、4月15日には熊本会場での説明会を予定していましたが、九州新幹線で熊本駅に着いたのが20時過ぎ。駅前のホテルにチェックインし、一休みして寝室の机でパソコンを操作している時に激しい揺れに襲われました。今回の熊本地震の前震（M6.5）で、震源地では震度7を記録しています。一瞬、ホテルの床が急に沈み込み、激しい横揺れが続き、とっさに部屋のカドに腕を当てて体を固定するのが精一杯で、揺れが収まるとテレビは床に転がり、壁の絵画はベッドの上に落ちていました。

このような地震被害にもかかわらず、翌日の説明会は予定の半数程度の方の出席を得て無事に終え、我々は予定通り熊本空港に向かいました。幸運にも予定よりも早い便に搭乗できたのですが、そのわずか数時間後に本震（M7.3 震度7）が発生、空港は閉鎖されました。振り返ってみると、予定通り説明会を開催したことは、極めて危険な状況であったと反省したところです。

現地では最初の地震から2週間近くが経過し、食料の供給には概ね目途がつくとともに電気や水道等のインフラの復旧が進んでいます。しかしながら、依然として余震は頻発しており、被災された方々の精神面の負担を考えると胸が痛みます。熊本城は、国の重要文化財の櫓が完全に倒壊するなど、石垣や建物に深刻な被害が出ています。熊本県は、トマト、スイカ、甘夏みかん、い草が日本一など、有数の農業県です。農業分野でもカントリーエレベーターや選果場の破損や圃場の地割れ、法面崩壊、農地の液状化など、大きな被害が出ています。「誉れの陣太鼓」は北海道の高級大納言を使用した粒餡をやわらかな求肥で包んだ美味しい熊本の銘菓ですが、阿蘇の工場が被災したため、製造を停止していると聞きます。この地域の人々の暮らしや産業活動、更に貴重な文化財が以前のレベルまで回復・修復するには、相当な時間と経費、人的リソースの供給が必要でしょう。我々に出来ることは限られていますが、一日も早い復旧を祈りたいと思います。（矢野 哲男）

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071
FAX：03-5570-0074

豆 類 時 報
No. 83

2016年6月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845
FAX：03-3584-1757
